

2018/3/23FRI-25/SUN

ちょっといい山

棚田の先に見える山・三草山 564 m

静かなる大展望の山・一山 1,064.4m

清冽なる水の源の山・藤無山 1,139.2m

山の虫クレマントクラブ（略称 YMCC） 川原健一 同行：川原薫

3月の連休に遠出をしようと思っていたが、前半雨に祟られたため断念。3日間で近郊の山3つを巡る山行に切り替えた。

3月23日 FRI 晴れ

三草山みくさやま 564m

三草山は兵庫県猪名川町と大阪府能勢町に跨る低山である。

マイカーを道の駅・能勢くりの郷に停め、汐の湯温泉（北）方面へ向かう。温泉は帰りに浸かろうと思っていたが、金曜日は休みとのこと。残念。

森上バス停を左折すると右手に岐尼（きね）神社。祭神は瓊瓊杵尊ニギノミコトで天孫降臨の伝説がある。

妙見参道石碑から曹洞宗慈眼寺を経、標識に導かれてゼフィルス森方面へ向かう。道端にフキノトウが出ているのを観察しながら歩くと、ゼフィルス森の森入口に至る。ゼフィルスとはこの地に多いナラガシワの葉を好むミドリシジミ類の蝶を指す。これらを守るためにずいぶん前から森林保護がなされてきていると聞く。



三草山山頂から三田方面を見る

ゼフィルス森のすぐ先に山頂はあった。時節柄木々の葉が少なく、見通しの利く山

頂からは大船山、有馬富士、羽束山、六甲山、播磨灘、阿倍野ハルカス等が見える。山頂広場には桜の木が多く植えられており、これからの季節は花見を兼ねたハイカーが増えることだろう。

ゆっくりと昼食を摂り、才の神峠へ下る。ここには江戸時代の石の道標や地藏さんがあり、8本の道が交差している。長谷集落の西端へ続く方面へ道を探る。林道脇の明るく開けたところにマンサクの見事な大木が数本あり、黄色い花を満々と咲かせていた。

長谷の集落手前には日本百選の棚田がある。バウムクーヘンのような見事な棚田の姿は、地元の方々が先祖代々耕作されてこられた賜物。林道から棚田越しに見る三草山が春の陽気に輝いていた。



長谷集落の棚田越しに三草山を見る

道の駅・能勢栗の郷 10:00

11:33 ゼフィルス森

12:03 三草山 12:53

13:31 長谷の棚田

14:48 道の駅

3月24日 SAT 晴れ

穴粟 50 名山名山 No20

一山ひとつやま 1,064.4m

一山は穴粟 50 名山に数えられている。穴粟 50 名山とは播磨穴粟のちょっといい山 50 を誰かが選定したものである（興味のある方は調査ください）。展望の山あり、岩場あり、ブッシュあり、深雪あり、沢あり、いろいろな登り方が静かに楽しめる、私が密かに登り込んでいる山々である。

登山口は山崎 IC から北上した阿舎利という集落にある。アプローチはほぼマイカーになる。登山口手前の二ツ橋に 1 台、作業用の車が停められている以外は今日も人影なし。

登山口の橋を渡り、林道跡を歩く。春の陽射しに温められた水たまりにヒキガエルの卵が無数に産み付けられている。

何故ここにあるかと言うような所のログハウスを横に見て、シャクナゲの群落を分けて取り付き尾根に入る。雑木の尾根を登りきると一端広場に出る。林道の終点に造ったもののようで、テントが 50 張りは張れそうだ。ここから残雪があり、主尾根の植林地帯に入るとさらに増す。

植林が伐採された辺りがすすき野になっており、そこを通して山頂が見える。道が定かでないが、一直線に薄野を突っ切ると山頂に出た。



一山山頂から氷ノ山が見えた

山頂からの展望はダイナミック。三室山、氷ノ山、阿舎利山、笠杉山、千ヶ峰、段ヶ峰、笠形山等々、恐らく扇ノ山も見えていたことだろう、名だたる山々がクッキリと浮かぶ。

山頂の石に腰かけ、バーナーで熱いものを作り、ゆっくりと眺めを楽しんだ。帰ろうとしていると単独行者が登ってきた。後でわかったことだが、彼はどうやら作業車の持ち主のようで、林道をずいぶん遠回りして登ってきたので、後から来た我々に追い越されたようだ。穴粟 50 名山を登っています。今日で 15 座目です、と彼は言う。我々も数えたことはないがそれくらい登ただろうか。またどこかの 50 名山で会いましょうと挨拶を交わし、下山の途に就いた。



杉の植林の下にミツマタの花が咲く

帰り道、一宮名水七選・阿舎利の水を汲んだ。その夜の水割りが得も言われぬ旨さだったことは言うまでもない。

阿舎利二ツ橋 11:25
12:12 林道広場
12:48 一山 13:54
15:09 阿舎利二ツ橋

3月25日 SUN 晴れ

穴粟 50 名山 No10

藤無山 1,139.2m

初級登山学校夏山編に関わっていた頃、山崎界隈はよく訪れたが、2 日も続けてきたことはなかった。今日も山崎 IC から北上する。

藤無山の登山口は幾つかあるが、今日のそれは一ノ宮町公文の志倉という集落の先の林道舗装の終点である。揖保川の上流に位置するこの水は、下流からずっと澄んだ色をしていたが、見事な蒼色をして流れている。

流れ沿いに上流に伸びる林道は随分荒れ

ていて、擁壁等が崩落していて迂回させられるところもある。小一時間も歩くと林道終点登山口である。

植林の伐採された中の道は、下草の枯れたところに残雪が乗っており、歩きにくいことこのうえない。稜線に上がり、それが終わると今度はススキの中の道で、これも歩きにくい。夏は一体どんな道なのかと思う。

なんとか頂上稜線に到達。大岩が横たわる眺めの良い場所で、小休止する。この先は植林地で、残雪が多く、ちょっとした雪山状態。そこを過ぎると山頂へ続く急傾斜となり、やがてブナの木々の山頂広場に至った。



藤無山頂上広場

今日は晴れてはいるが霞が広がり、昨日一山からこちらを眺めた時ほどの透明さが大気にはない。食事をしているとブナの木々の枝に鮮やかな色をした鳥が一羽。頻りに木の枝を啄んでいる。ヒレンジャクだ。群れを成していることが多いと聞かすが、ただの一羽だ。我々に気づかないのか。景色の代わりに珍しい鳥を見ることができた。

下山路は南方面に取り、登りに利用した林道の枝分かれ終点を目指して杉の植林地を下る。明快な踏み跡がないので頻りに地図を確かめて、緩い傾斜を選びながら下る。やがて林道に至る沢に下り、間もなく林道を踏んだ。

帰り道、一宮名水七選・千年水を汲んだ。その夜の水割りが又もや得も言われぬ旨さだったことは言うまでもない。



ヒレンジャク

END